

# 鞠智城跡(きくちじょうあと) 第37次発掘調査概要

## 深迫門跡(ふかさこもんあと) 周辺の調査

はじめに

唐居敷(からいしき)が「長者どんの的石」として知られていた。

\*唐居敷・・・門の扉(とびら)の土台となる石。

(これまでの調査)

1次調査(1967年度)・・・深迫地区の地形調査と唐居敷周辺の調査

3次調査(1968年度)・・・深迫地区唐居敷周辺の追加調査

16次調査(1994年度)・・・谷頭全域の調査。版築土塁の確認。

28次調査(2006年度)・・・16次調査の確認とトレンチ調査による下層の確認調査。

◎これまでの調査成果

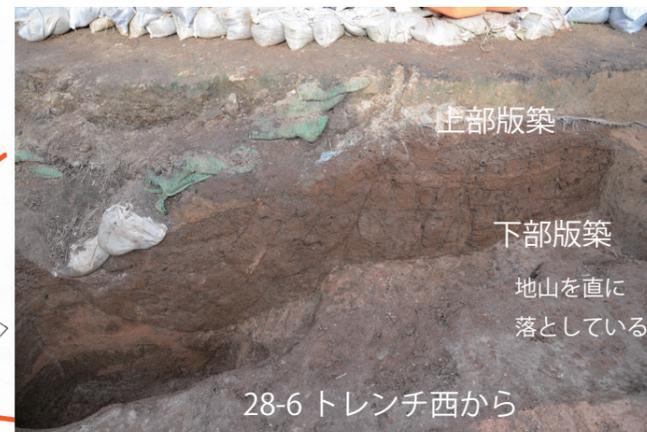
- (1) 鞠智城の最終段階の登城道の石敷きを確認。
- (2) 谷を狭めるために版築工法で造られた土塁を確認。
- (3) 北側及び南側土塁裾に柱間1.8mの柱列を確認
- (4) 南側土塁は幅約6.7m、高さ約4.0m以上、北側土塁は4.0m以上であることを確認。

→高さについては、北の園路側にも版築が見られることから、高い土塁であったことは推定できていました。

◎2011年度 それまでの調査成果をまとめた総合報告書を刊行

2015年度 第3次鞠智城跡保存整備計画を策定

2020年度 計画に基づく深迫門跡の整備のための発掘調査開始



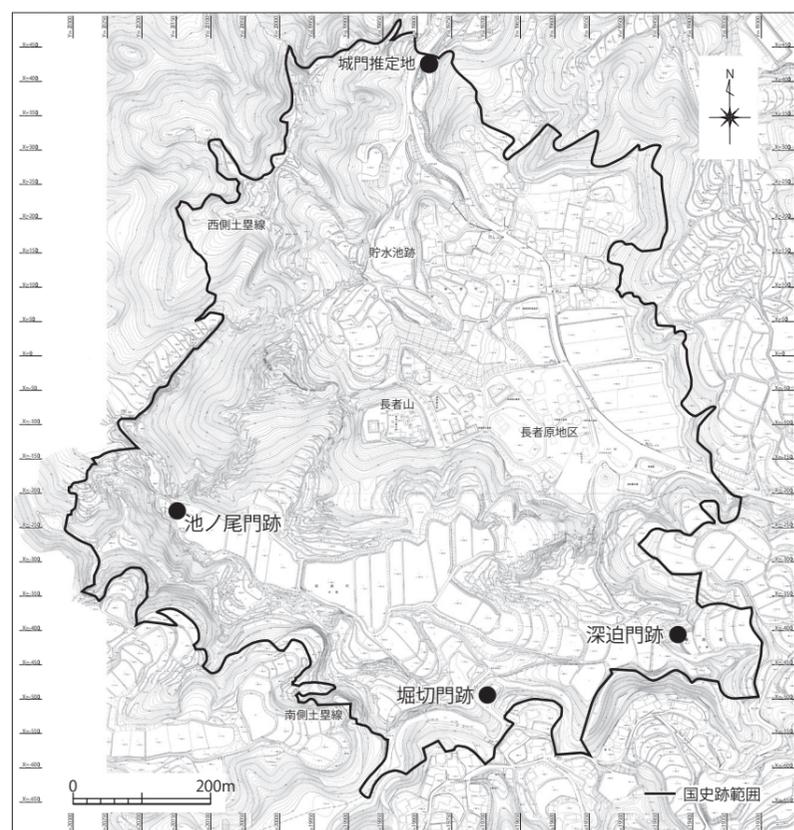
### 1 門推定地南側土塁の状況

門推定地の南側土塁の築造方法が断面で観察できました。

地山を直に削って下部は白色土を中心とした版築、上部を黒褐色系の土で版築しています。門道付近は、埋められていて、北側の深い部分では約2m下から丸石が2点見つかり、古い時期の門道の高さとして推定しています。



○ 推定登城道面



深迫門(ふかさこもん)調査区位置

### 2 門推定地北側土塁の状況

門推定位置の追加調査・再検討と北側土塁から門道にかけての構築技術の調査



35-3 トレンチ東側拡張調査区



35-3 トレンチ石積み検出状況(南から)

